

日本語講義 —外国人留学生の日本語学習のために¹⁾—

植 田 均
Ueda Hitoshi

序章

- 第1章 日本語の諸問題：カタカナ語、敬語
- 第2章 なぜ「あいまい表現」をするのか？
- 第3章 なぜ、最初に結論を言わないのか？
- 第4章 読み手に分からせる原稿とは？
- 第5章 なぜ、音読が良いのか？

序章

本稿は、中級～上級レベルの日本語を駆使する外国人留学生に対して特に重要だと思われる事項を5つに分けて論述する。具体的には、まず、カタカナ語、敬語の問題。外国人が日本語学習において最初に遭遇する難題である。どういふものをカタカナ語で書き、敬語表現にするのかを示す。第2章、第3章は、日本人がよく用いる婉曲表現はどのような効果をもたらすのか、そして、なぜ婉曲表現にするのかに言及する。第4章は「原稿の書き方」として、少しの工夫でわかりやすい文章が書けることを開陳する。第5章は、音読の効果を講述し、代表的名作を挙げておく。

以上により、日本語を操る日本人の心模様を多少は理解できるであろう。文化摩擦は、言語を理解できても、その言語が発せられた心の奥の心情を理解していない場合に起こる。文化摩擦が少しでも解消できれば幸いである。

第1章 日本語の諸問題：カタカナ語、敬語

[カタカナ語]

1. 「カタカナ書き」とは？

昨今、カタカナ語が氾濫していると日本人でも感じている。よって、外国人にとっては、更に厄介な存在になっていると想像する。では、一体どういう場合を「カタカナ書き」するのか？

外来語を一般に「カタカナ書き」とする。この種類には、以下3種(1.1.～1.3.)に分類できる。これは、日本語の中に入って来た歴史的段階によるものである。ただし、古代中国語は(日本語の中に同化されてしまっており)

慣習上「外来語」とはされない。

1.1. 歴史的に古く、既に日本語化しているもの

「ひらがな書き」をしても可のものも存在する。且つ、漢字まで存在する。

例:キセル (煙管):[カンボジア]、タバコ (煙草)、ジュバン (襦袢)、カップ (合羽)、カルタ (歌留多):
[ポルトガル]、ガラス (硝子):[オランダ] 等。

1.2. まだ外国語の感じが残っているもの

日本語ではないが、固定化している。したがって、カタカナで書く。「スカート」を取って和語で表現すれば「洋袴」になるかもしれない。しかし、これではあまりにも奇異な日本語になってしまう。「スカート」はスカートであって、日本語の中に固定化している。

「コップ」は「湯呑み」、「湯呑茶碗」と少し語感が異なる。ただ、意味的に重なって使用することもある。
例:スカート、コップ、ニュース、アクセサリー (英国)、ズボン (仏国)、カラン (オランダ)「蛇口、給水栓」、ピアノ (伊国)、ダンボール (和製語であって、英語ではない。正確には“段 board”である) 等。

更に、日本語に同化していないが、西欧語でもない外国語が、以下に示す物として存在する。一般に中国語からの「食べ物」の類である。

ハンペン (“方餅”)、ギョウザ (“餃子”)、ワンタン (“馄饨”)、ラーメン (“拉麵”) [中国] 等。

1.3. 外国語のままに使われているもの

上記 (1.1.～1.2.) のものよりも日本語に入り馴染んだ時間が新しい。

例:プロデュース、ゼスチャー、ショー、ミニ、ホームシック、サイト、アウェイ、ヘルニア、フィードバック、リスニング (なお、「ヒアリング」は和製外語) 等。

では、「ゆたんぼ」はどう表記するか? 一般に「湯タンポ」とする。しかし、「湯タンポ」を外来語だと認識する日本人はどれくらいいるだろうか? 外来語を厳密に検証すれば中国語“湯婆”からきた「ゆたんぼ」(“湯湯婆”) 等も該当する。しかし、慣習として、日本で「外来語」というのは、主として欧州諸言語から日本語に入ったものを指す。基本は、国語審議会の「外来語表記の原則と用例」のルールに従う。カタカナ語表記になったとたんに、外国語そのものの表記 (現地の発音) ではなく、日本語 (音読) に生まれ変わるようである。例えば、“host family” は、より現地の発音に近い「ホースファミリー」ではなく「ホストファミリー」と表記するごとく。²⁾

現代日本社会において、カタカナ語で表現するもののうち、固有名詞と固有名詞以外に分かれる。前者は外国の地名等であるが、後者は、語源が外来語ではなく日本語であるものを提示する。各々、本章第2項、3項で論述する。

2. 固有名詞のどのようなものが「カタカナ書き」か?

外国の固有名詞の国名、地名、人名は一般に「カタカナ書き」とする。但し、中国及び台湾を除く。なお、韓国、北朝鮮は、国名、地名、人名に漢字表記を使用することもある。

2.1. 各国および地名の呼称

ミャンマー、ベトナム、スリランカ、ブラジル、ネパール、セネガル、カメルーン、パリ、ロンドン、プノンペン等。

2.2. 慣用の用法が固定しているもの

イギリス (「グレート・ブリテン……」とはしない)、アメリカ (「ユナイテッド・ステイツ……」とはしない) 等。

2.3. 漢字を当て字に使用しているもの

漢字文化圏に多い。

ハルピン（哈尔滨）、アモイ（厦門）、モンゴル（蒙古）、マカオ（澳門）、ホンコン（香港）、チンタオ（青島）等。

2.4. 外国人の人名（非漢字文化圏のケース）

ステイーブ、キャサリン、エミリー等。

3. 固有名詞以外の「カタカナ書き」はどのようなものがあるか？

基本的に「外来語」ではない。れっきとした日本語である。

3.1. 当用漢字で書けないもの、または書きにくいもの

3.1.1. 学術用語としての動物、植物：クジラ、イルカ、サメ、マグロ、シャチ、コイ、ツバメ、クロマツ、クマザサ、クリ等。

3.1.2. 道具類：カンナ、ノミ、キリ、ハサミ、メス、ノコギリ等。

3.1.3. 病名：胃ガン、心臓マヒ等。

3.2. 俗語、隠語、流行語

3.2.1. 俗語：ケチ、デタラメ、ヘチャ、チャチ、ムチャ、メチャ、チク等。

3.2.2. 隠語：ネタ（「種」＜タネ＞の逆さ読み。「材料」を指す）、ゲンナマ、ヤバイ、シャリ³⁾等。

3.2.3. 流行語：カッコいい、メロウ、ケータイ、着メロ、スベる、コク等⁴⁾等。

3.3. 擬声語、擬態語

3.3.1. 擬声語：コトコト、ウッフン、ピーピー、ポチャリ、プツン、ポキッ、ガーン等。

3.3.2. 擬態語：トボトボ（“没精打采”）、ノツソリ（“磨灵”）、ノソソソ、ヨチヨチ、キラリ、コソコソ、ウトウト、ウツラウツラ、キリキリ等。

3.4. 感動を示す語：コラー！、エーッ！（びっくりしたとき）、ウッソー！、ヒャー等。

3.5. よみにくい時や、強調したい時：ドロボー、ムカツク、ヤロー！等。

3.6. 方言、なまりを強調：「よかバイ」（九州弁）、「オモロイ夫婦」（関西弁）、「ホンマに！」（関西弁）、「トちゃん」、等。

3.7. 一字訓の漢字で、ひらがなだと分かりにくい場合：「巳（ミ）年」等。

以上で、語源が外国ではなく日本語であった例を終える。

次に、外国人にとって、厄介なのは、敬語の表現法である。本項目では、原稿にする場合、単に「お」を冠するか否かについてのみ論じる。

【敬語】

原稿の「敬語」はどう用いるか？

原稿は、口語体で書くが、「話し言葉」そのものではない。「お」を付けるか否か、NHKの報道関係用語として使い分けしている例（行事、衣食住）：

1. 「お」を付けてよいもの

お産、お詣り、お礼、お札（神社など）、お茶、お湯、お菓子、お団子、お握り、お汁粉、お供え物等。

2. 「お」を付けなくてよいもの

[冠婚葬祭、年中行事]：年始、彼岸、中元、念仏、墓参り、見合い、仲人、披露、通夜、悔やみ等。

[食べ物]：米、ムギ、豆、ジャガイモ、サツマイモ、そば、うどん、刺身、肉、野菜、つけもの、味噌汁、醤油、酢、砂糖、豆腐、酒、とそ、せんべい、ようかん等。

[台所用品]：皿、茶碗、しゃもじ、箸、鍋、等。

[建築関係]：玄関、座敷、客間、茶の間、台所、風呂等。

[店舗]：肉屋、魚屋、酒屋、米屋、そば屋、豆腐屋等。

なお、原稿（書き言葉）でも話し言葉でも「お」をつけてはいけないものは、沢山存在するので、注意。例えばハサミを「おハサミ」というのは誤用。

次に、日本人の精神的特徴としての表現が存在する点に言及する。

第2章 なぜ「あいまい表現」をするのか？

中国人はストレート表現を好む（“开门见山”「ドアを開けるとすぐ山が見える。ズバリ本題に入る」）。しかし、日本人は「あいまい表現」を好む。故意に「あいまい表現」とする理由は、「曖昧性」ゆえに相手をいたわり、傷をつけないようにする。そして、このような表現を好んで使用するのは「美しい」、「謙虚」、「控え目」と、日本人の多くが考えているからである。いわば「曖昧性の美学」である。これを理解しようと試みなければ、外国人はいつまでたっても日本人の「心」を理解できないであろう。たとえ、「コトバ」を理解していても。

以下、ストレート、断定表現を嫌い、あいまい、へりくだり、婉曲、控え目等の表現を好む実例を挙げる。

1. 非合理性、あいまい性は、逆に「美しい」言語

あいまい性は、判断・結論を相手に委ねてしまうことになる。この結果、自分に少々不利でも自分さえ我慢してしまえば、相手との関係は何かうまくゆくという利点がある。

[例]：派遣社員を依頼する場面

A（雇用者）：「今度、1カ月間、（この仕事を）お願いしますよ」

B（被雇用者）：「まあ、考えておきましょう」

これは日本人同士の会話である。明瞭に断わっては気の毒。これには「もし、そのうち暇ができたなら承知してもよいかな」という気持ちがある。

A（雇用者）：「では、どうぞ宜しくお願い致します」

これでは、何が「宜しく」なのか、厳密には分からない。しかし、お互いに敢えてそれを追究しない。日本社会では、Bの「考えておきましょう」は実現の可能性が0%に近いのである。

米国などの外国の場合は、同じ内容でも次のようになる。

A：「支払い金額は、1時間いくら、申し込みの締切日は○年○月○日までとする」

B1：「OK！」

または、

B2：「NO！」

となる。これを日本の社会から見れば「ドライ」、「シビア」と称する。しかしながら、現代日本では、後々発生す

るであろうトラブルを見越して「時間給の額」等を明確にしておくような傾向になってきている。

[例] アルバイトを申し込む場面

カッコ内は、言外のコトバ、心の中のコトバである。

A (被雇用者): 「夏休みの間、お願いします。(雇ってもらえれば嬉しいです)」

B (雇用者): 「考えておきましょう(現在では無理だね。ただし、人員の空きができれば雇ってあげるよ! 本当は、即座に断りたいが、ストレートに表現すれば悪いからね)」

A (被雇用者): 「(心の中で<相手は余り良い反応ではない>と判断した。しかし、次のように言うのが無難だ) それでは、宜しくお願い致します」

これらは、中国やミャンマーなどの社会ではどのような表現をするか? 中国語で“考虑考虑吧!”を用いると日本語の「考えておきましょう」の如き曖昧表現になり得るだろうか?⁵⁾

2. 相手への「思いやり」

全てが広義の「あいさつ」にすぎず、厳密な意味は無い。

[例] 近所の知人に道でばったり会った場面

1 A: 「やあ、鬼塚さん、お久しぶり。どちらへ?」

2 B: 「いや、ちょっとね」

3 A: 「それはそれは、では」

4 B: 「じゃ、また」

以上の会話は、この2人にとっては、一応、事足りたやりとりである。これは、相手への「思いやり」(“体谅; 关怀”)である。次に、上記会話の胸の内(=行間)を示す。

2 B: (心の中のつぶやき)「私は今、急いでいて、ゆっくり話せない」または、「相手に伝える必要のない用件だから、詳しくは話すこともない」

このようなとき、中国語では“去走走; 去逛逛”(ちょっとそこまで散歩)を用いると日本語の「いや、ちょっとね」に完全に一致するだろうか? 中国語のほうがより具体的に思えてならない。

3 A: (心の中のつぶやき)「鬼塚さんは何だか急いでいるようだ。よって、この場で引き留めることは失礼になるから、このまま別れよう!」

「あいさつことば」はなぜ必要なのか? ⇒日本人の場合、人間関係をスムーズにするという考え方が強い。いわば、「潤滑油」(比喩的に用いる。物事の運びを円滑にするもの)のようなものである。この逆の「あいさつことば」を用いないのは、「錆びた歯車」のようなものになる⇒ギスギスしている。うまく回転しない。物事がうまく進まない。

3. 謙遜の表現(へりくだった言葉)⁶⁾

日本語の「謙遜表現」(へりくだった言葉)がなぜよく行われるのか? それは、自分自身の「へりくだった気持」が相手を立てることになるからである。

<・贈答品を相手に渡すときの表現>

話し言葉の「謙遜表現」として、以下のA1～A4は、どれが最も良いですか?

A1: 「(これは) つまらないものですが、どうぞ(お受け取り下さい)」

A2: 「(あなたに) とっておきの、すばらしいものをあげましょう。わざわざ探してきたのですよ!」

A3:「(あなたのために) とても素敵なものを用意致しました」

A4:「(あなたがこの品物を) 気に入ってくれるとうれしいのですが」

A2、A3は、傍で聞いていても「おごり」、「高ぶり」の気持ちを感じ取ってしまう。

「つまらないもの(かもしれない)」は、相手の立場・目線からみでのことばである。そうすることによって、相手に「気遣い」をさせずに喜んでもらえる。そのために敢えて示す表現である。A1、A4が理想的表現。日本、ミャンマーではA1、A4を使用。但し、中国ではA1、A4を使用するが、A2、A3も使用する。筆者は中国で何度もA2、A3を耳にした。

<・食べ物贈答品を相手に渡す場面>

A1:「お口に合いますかどうか心もとないのですが…」

A2:「ご笑覧くだされば幸いに存じます」(自分の物を他人に見てもらおうときの謙譲語)

A3:「ご賞味下さい」(この言い方は「この食べ物を褒めて下さい」の意味になる。「賞味」は「食べ物を褒めて味わう」を示す。しかも、一方的な命令形であって「謙遜」が無い。したがって、A3は不適切。A1、A2を用いなければならない。なお、「どうぞ、お召し上がりください」ならば適切である)。

<・菓子折りを相手に宅配便で贈るとき、ハガキで文を綴る場面>

文章語では、「謙遜表現」を次のB2のように受け答える。

A:「粗菓少々お目にかけます」(仮にたくさん贈るときでも「少々」とする。中国語、ミャンマー語でも同じように「少々」を付けるのか?)

受け取った側が「粗菓」や「少々」を用いるのはよくない。B1は良くない例。

B1:「粗菓少々お送りいただきましてありがとうございます」

B2:「たいへん立派な銘菓をご恵送下さいますことによりありがとうございます、厚く御礼申し上げます」(たとえ、相手がAの表現で送ってきても、B2のようにしなければならない)

<・食事でのマナー>

主人が客人に対して言う場合(日本では下記A1の如き「謙遜表現」を使わねばならない。欧米では逆に自己主張、自慢する。ミャンマー、中国ではどういう表現をとるか)。

A1:「何もございませんが、どうぞ(時間の許す限りごゆっくりお召し上がり下さいますように)」

「何も良いものが無いのですが、どうぞ召し上がれ!」(“There is nothing to eat, but please eat.”)というのは、理屈からいえば、おかしい。しかし、もてなす側は「へりくだる」意向を示すために敢えて言うのである。

西洋人は「何も無いのならば、なぜ食べられるのか?」と、論理的に考えるだろう。しかし、日本人の心の底には「謙遜語は相手を立てることになる」という考えが強くあるのである。

A2:「ありあわせで、これといって風情もございませんが(どうぞ、お召し上がり下さい)」

ただし、A1及びA2の表現は「会費制」の宴席などでは使えない。自分たちが出し合ったお金が「素餐」になれば(在席の人々にとって、少々耳障りで)割に合わないと思ってしまうからである。このような場合は次のA3の如く言う。

A3:「お口に合うかどうかわかりませんが、どうぞお召し上がりください!」

この表現ならば、皆がお金を出し合った「会費制の宴席」でも使用できる。

4. ストレートを嫌う⁷⁾

言葉が理解できても、その心(言葉の行間、言葉の裏)までは、外国人にはわからない。「察し」がつかないのである。

今、流行の言葉で表現すれば「KY」(その場の「空気が読めない」)である。「KY」であれば皆から嫌われる。しかし、日本人ならば、ストレートに言わなくてもどうすれば良いかすぐわかる。所謂「察し」がつくのである。

[例] 道で知人に会った場面 (A は日本人、B は外国人とする)。

A: 「山田くんはヘルニアの病気で入院しています。」

B: 「もう、1カ月にもなるのですか? 全然、知りませんでしたね。」

A: 「彼はとても寂しがっていますよ。」

B: 「病院にいるのに、なぜ、寂しいのですか? あそこは大病院で、多くの人がいますよ!」

A: (口には出さず、心の中の眩きとして) 「(そりゃあ、寂しいに決まっています!)」

日本人は、心の中で「病院に見舞いに行った方が良い」と思っている。しかし、はっきり言わない(まわりくどく暗示するだけにすぎない)。この結果、外国人にはわかりにくい。

日本社会では、「見舞いに行ってやって下さい!」は、(子供に対しては良いが) 大人の間では失礼になる。日本語では、(たとえ敬語を使用していても) 命令形は大人に対してめったに使われないからである。

あいまいな表現は国際的コミュニケーションにおいては、常に誤解の危険を孕んでいる。しかし、日本社会においては、(外国人を含む) 人間同士が露骨な言葉をぶつけ合っていれば、到る所で争いや摩擦が起こり得る。

論理的な視点をありがたがるのは、未成熟な社会ではなかろうか。逆に、曖昧であるのは、相手を立て、信用しているからで、相手の判断、理解力に対する敬意のしるしである。わけのわかっている人に向かって、わかりきったことを言うのは大変失礼である。日本社会では、あからさまに言うのは「相手を粗末に扱うことになる」と考えられている。子供の社会では「微妙な呼吸」を要求するのは無理であろう。

微妙な呼吸のわからない者(所謂「KY」)及び子供に限って「あいまいな表現は困る」と言う。ところが、大人の社会、そして、洗練された社会では、よりいっそう心理的である「察し」に価値を認める。それゆえ、曖昧、多義的表現が栄える日本語は、極めて成熟度の高い社会における言語と言えないのではないだろうか。

5. 「あいさつ」は文字通り受け取れない⁸⁾

日本語には、「行ってきます」、「ただいま」、「いただきます」、「ごちそうさま」などの挨拶言葉が多い。これらの役目は単なる「潤滑油」にすぎない。これらは全て重い意味はない。これらの「あいさつ語」に対応する中国語、ミャンマー語は存在するか? また、その用法は、日本語と同じだろうか?

<・「挨拶言葉」に注意すること>

[例] 知人との会話の中で用いた言葉

A (日本人): 「暇なときにはあそびにいらっしゃい」

これは、単なる「あいさつ」にすぎないから、その場限りで消えてしまうもの。大した意味がないのである。外国人のBがそれを真に受けて訪問すると、Aの様子がおかしいのも当然であろう。しかし、この辺の機微が分からないBは、次のように感じてしまう。

B (外国人): (心の中で眩く) 「本当に来てほしいのではなかったら、どうして口先だけやさしそうなことを言うのか? 日本人は言葉と心が別々である。言葉はやさしくても、心は冷たい!」⁹⁾

<・「是非お立ち寄り下さい」>

[例] ハガキなどでの「転居通知」

A (日本人): 「このたび、左記の所へ転居いたしました。近くへお越しの節は是非お立ち寄り下さいますようお願い

い上げます」

B (外国人) : (心の中で次のように考えた)「<是非>と書いてあるからには、無理してでも行かなくてはなるまい」と、わざわざ訪問した。しかし、相手側には怪訝な(不思議で合点がゆかない)顔をされ、ほうほうのてい(這這の体:今にも這い出さんばかりの様子)で逃げるように帰ってきた。¹⁰⁾

<「挨拶言葉」には、真の意味が無い>という典型的な例である。

<・落語で有名な「京の茶漬け」¹¹⁾>

[例] 知人の京都人宅を訪問し、少し時間が過ぎたとき

A (京都人) : 「お茶漬けでもどうぞですか?」

B1 (標準的日本人) : 「いえ、ちょっと急ぎますので、今日はこれで失礼いたします。」

B2 (「KY」の人) : 「それはどうもありがとうございます。御馳走になります。」

B1 でないといけない。B2 では話にならない。なぜだろうか?

「お茶漬けでもいかがですか?」⇒これは、ただの「あいさつ」である(本当の意味は「もうそろそろお昼くまたは「夕方」>ですよ。お帰りになったら如何ですか?」を示す)。

日本社会における会話では、単なる「潤滑油」の働きなのか、それとも「真の意味」にとらえてよいのか、自分でよく判断しなくてはならない。

同様に、宴会のホスト側幹事が宴の終了間際に「食べ物、飲み物もまだ十分ございますので、お時間の許す限り、ごゆっくり歓談下さい」という。これも「そろそろお帰りの時間ですよ」と考えた方がよい。¹²⁾

中国やミャンマーでは、親しい間柄において「ご飯を食べましたか?」(“吃斧了吗?”)がよく使われる。これは、単なる「あいさつ」であることが多い。留学生は筆者に対して中国語“吃斧了吗?”の翻訳語である「ご飯を食べましたか?」をよく語りかけてくる。学内食堂でなら、または、昼食時間帯ならば「ご飯をたべましたか?」の挨拶もよい。しかし、それ以外は翻訳語「ご飯をたべましたか?」を使用するのは控えるべきである。

6. 「目上の人」に対しては?

日本語には、「目上の人」には使いにくい表現がある。上長の人に言う場合と目下に言う場合とでは、用法が異なるので注意しなければならない。挨拶用語の1つである次の例は、目上の人に対して用いることができるだろうか?

「ご苦労様!」

中国語では“辛苦了!”これは、中国語では目上にも用いるだろうか?目上の人には“您”を冠させ、“您辛苦了!”という。ただし、これも改まった場合にだけであって、あいさつ語として“辛苦了!”自体の使用頻度が少ない。次の例も挨拶用語である。

「お疲れさま!」

中国語では“叫您受累了!”これは、中国語では目上にも用いるだろうか?ミャンマーではどうか?総じて言えば、中国語では「お疲れさま」自体、一般に用いない。日本人社会よりもあいさつ語は少ないと思われる。中国語では、午後五時になり、会社から退勤するとき“我走了!”(“帰ります!”)のみの表現であって、「お疲れさま!」に相当する語は無いのが一般的である。中国語の「帰ります!」(“我走了!”)は、あくまでも「自己主張」であり、「お疲れさま!」は、相手に対しての「気遣い」が存在する。

日本語では、目上の人に対してどのように言うか、工夫が必要である。下記 A1 ~ A3 の例では、部下の人が仕

事上のことで目上の人に対して「ねぎらう」表現である。どれが理想的か？

A1 (部下) : 「お疲れ様！」 (または「お疲れ！」)

B1 (上司) : 「(なにッ!?) ……」

A2 (部下) : 「(本当に) お疲れ様でございます！」

B2 (上司) : 「おお、ご苦労さん！」

A3 (部下) : 「お疲れが出ませんように (大事になさって下さい) ！」

B3 (上司) : 「ああ、ご苦労さま！」

「ご苦労様！」は、目上の者が目下の者に対して言う言葉。目下の者が目上の者に対して使用してはならない。これに対して「お疲れさま！」は、目下の者が目上の者に使用してもよいか？一般に、構わないとされる。しかし、できれば、A1 よりも A2、A3 のように更に丁寧な語を付加するほうが無難である。

次は、上司がねぎらいの言葉を部下にかけている。部下の返答に注意。下記 B1 ~ B3 のどれがよいだろうか。

[会社で残業している場面]

A (上司) : 「ご苦労様！」

B1 (部下) : 「いや、大したことではありません！」

B1 は、恐縮する返答になっているのでよい。

B2 (部下) : 「ええ、だいぶ仕事がたまってしまって！」

B2 は、本当の事実を述べ、謙遜が無い。したがって、生意気に聞こえる。

B3 (部下) : 「いえ、いえ！」 または 「いーえ！」

B1 ~ B3 の中では、理想的な「受け答え」は B1、B3 である。

7. 「遠まわし」な言い方

どんなに良い言葉を使っても「滑り出すような話し方、相手に心の準備を与える話し方」をしなくてはいけない。「婉曲な言い回し」を上手にすること。日本社会では、これが最も大切である。(いきなり本題に入るストレートな表現“开门见山、直截了当、一针见血”は、中国では好まれても日本社会では嫌われる)。

[例 1] 社内で部下が上司に企画書を提出する場面

A1: 「もし、お手が空いていたら、この企画書を見ておいてくださいますか？」

これは、上長の人に言う丁寧な言い回しで、理想的な表現とされる。

A2: 「この企画書を見ておいて下さい！」

A2 は、「…して下さい」ゆえに丁寧語にしている。しかし、結局は「命令形」ゆえにストレートすぎる。したがって、相手に対して失礼になる。ところが、A2 に以下、A3 ~ A5 を付加すると婉曲表現になり、耳障りがよくなる。

A3: 「お忙しいですが、…」

A4: 「もし、時間があれば、…」

A5: 「もし、暇ができましたならば、…」

[例 2] 自分のクルマに知人を乗せる場面

A1: 「クルマに乗って行きませんか？」

A1 は、ストレートすぎる。これでは、「乗せてあげる」という当方の厚意が相手に重くのしかかる。理想表現は、次の A2 である。

A2:「私もそちらの方へ行くので、クルマに乗って行きませんか？」

日本では特に「自分の厚意の軽減を図るのが相手に対して親切である」と考えられている。

[例3] 相手にものをたのむ場面

[本を見せてもらう]

A1:「その本を見せて下さい」

A2:「その本を見せて下さいませんか？」

A1でも良いと思うかもしれない。実は「命令形」ゆえにストレートすぎ、相手に対して拒否する余地を与えないので良くない。相手に「心の準備」や「別の選択肢」を与える「依頼形」のA2の表現にしなければならない。

[伝言を頼む]

A1:「店長に言って下さい」

A2:「店長に言って下さると助かります」

A1は、丁寧語として「～して下さい」を使用しているけれども、「命令形」ゆえにストレートすぎる。A2を用いる方が柔らかくなり余程良い。

[缶コーヒーを買ってきてもらう]

次のA1～A3のどれが理想的表現だろうか。

A1:「缶コーヒーを買ってきてくれ」

A2:「缶コーヒーを買ってきて下さい」

A3:「ついでに缶コーヒーを買ってきてもらえませんか？」

A1、A2は「命令形」ゆえにストレートでやや耳障りに聞こえる。A3は「依頼形」ゆえに、相手に「心の準備」を与えている。したがって、理想的な表現と言える。なお、A1は男性のセリフを示す。少々荒っぽく聞こえるからである。A2は（丁寧語「～して下さい」を使用しているので）男女両方で使用可。

次の例は、逆に、遠まわしに言ったせいで、真意が相手に伝わらなかった会話。

[例4] 相手に買物を頼む場面で「遠回し表現」が通じない場合

Aが上司、Bが部下。Bの受け答えに注意。

A:「途中にコンビニがあったら、ついでに缶コーヒーを買ってきてくれ」

B:「途中にコンビニはありませんでしたので、缶コーヒーを買ってきませんでした」

A:「自動販売機はなかったのか？」

B:「ありました」

A:「では、なぜ買わなかったのか？」

B:「けれどもコンビニはありませんでした。」

Bの返答を聞いていると、全く「察し」能力が無いように思えてならない。「途中にコンビニがあったら」は、単に言葉を和らげるだけに付け足したので、意味は特に無い。ところが、これを真に受けて、買ってこなかったのである。このような結果では、「遠まわしな言い方」をしないほうが良いのか？と、考えさせられる。「缶コーヒーを買ってきて！」と、皆がズバリ、ストレートに言わねばならなくなるとどうなるか？当然、「錆びた歯車」(ギスギス)の社会となる。

8. なぜ「断定表現」を避けるのか？

断定を避けるのも「一種の遠まわし」を示す。すなわち、日本人の遠慮深さを表わす。¹³⁾

[例1]:「……であると思う」群と「……だ」、「……です」、「……である」群の違いはどこにあるだろうか。更に「……ではないかと思う」(下記A2。これは、A1よりも丁寧な表現)がある。「……(だ)と思うのですけれども」は、「思う」と「けれども」をつけて「遠慮深さ」を出す表現。A3、A4も同様の「遠慮深さ」を出す表現である。これは、外国人にとって「明快でない!」と感じるのである。

A1:「注意した方が良いと思う」

A2:「注意した方が良いのではないかと思う」

A3:「注意した方が良いのだと思うのですけれども」

A4:「注意した方が良いと思うのですが」

[例2]:「……だ」、「……である」。これらは下記A5～A8いずれも同じ「断定」表現で、たとえ外国人が使ったとしても>日本人にとっては、どの表現も生意気に聞こえる。これらは、確かに明快である。しかし、日本人ならば聞いていて「少し自己主張が強い」と感じてしまうからである。

A5:「注意した方が良い」

A6:「注意した方が良いです」

A7:「注意した方が良いのだ」

A8:「注意した方が良いのである」

9. 「へりくだる」のは、「相手を立てる」ことを表す

「相手を立てた」結果、当事者の間で「うるわしい」感じがともなう。謙遜の言葉が敬語と考えられるからである。

[例] 体の安否を尋ねられたときの「受け答え」として

A1:「私は健康です」

A2:「おかげさまで健康にしております」

A1の表現では「へりくだり」が全く無い!「自己主張」ばかりである。A2は、謙遜のあいさつ言葉「お陰さま」を用いていて、そばで聞いていても気持ちがよい。謙遜表現の効用が出ている。

「おかげ」は、「神仏の加護を受け、相手や皆の力添え、援助によって」を表す。自分の健康は自分ひとりで得たものではなく、大いなるものの力のおかげであるのだから、自分を低めることにより耳障りがなくなる。¹⁴⁾ ミャンマーでは「おかげさまで」と同様の表現法をよく使用するという。中国語では「お陰様で」に相当する“托福托福”をよく用いるか? 筆者は、これまでの経験から中国社会では、一般に余り用いないと感じている。勿論、改まった場では用いるようではある。

10. これまでの伝統的な日本人女性¹⁵⁾

「控えめ」、「自己主張しない」。これは、日本古代から伝統的な女性の特徴、美德とされてきた。

次のセリフは、相思相愛の男女が愛を確かめあうクライマックスの場面である。

男: “I love you.”

女: “I love you.”

この英文をどう訳すか? 以下の日本語訳で良いだろうか。特に女性のセリフ。

男：「好きだよ！」

女：「私もよ！」

女性の「受け答え」として、男性と同じようにストレートに「私もよ！」と表現するのが多いようである。現代の女性では、これで何ら問題が無いように思われるかもしれない。しかし、日本古代からの伝統的な習慣では違ったのである。「私も！」なんて受け答えすれば、教養の無い「あばずれ女」（悪く人づれがしてあつかましい者。すれっからし）になる。今から100年以上前の明治時代、二葉亭四迷はここを「死んでもいいわ！」（中国語では“死也甘心!”）と訳した。なぜ名訳となるのか？

「愛を確かめ合う」のは、人間にとって「最高の場面」である。特に、明治時代の日本人の女性にとっては、最愛の人から「愛の告白」を受けるのは人生の最高の場面と言える。しかしながら、教養ある女性は、「はしたない」（中国語では“下流”：きまりが悪い、みっともない）こと（即ち「自己主張」）はしない。全てにおいて「控え目」（中国語では“忍耐、抑制、不出整頭”）なのである。

国際社会では、日本人男性も「控えめ」、「自己主張しない」のが目立ってきている。この結果、よく言われているのが「日本人の外交術が下手」な点である。種々良いことをしていてもアピール度が下手ゆえに外国人に伝わらないことが多い。

次に、最初に結論を言うのか否か、について論じる。

第3章 なぜ、最初に結論を言わないのか？

結論を最初に言うか否かは、会話文と書き言葉（文章語）とで正反対になる。まずは、会話文から。

1. 最初に結論を言って相手を驚かすのはよくない

会話文において、日本語では、最初から大事なこと、本題を言って相手を驚かせたりはしないのである。

英語では、まず、最初に結論を述べ、それから少しずつ補足説明をする。発想の型が正反対である。日本語は、「単刀直入」（中国語では“直截了当”、“开门见山”）はよくないとされている。まず、他愛ない「あいさつ」をして、相手に心の準備をしてもらう。ぶっつけに結論を言うと、相手は驚く。日本人は「人を驚かすのはよくない」とする。中国語やミャンマー語ではどうか？

以下の事例では、外国人青年がドライブにいきなり誘っている。つまり、結論を最初に述べているのである。これに対して、日本人女性としてはまず「お愛想」を言うにとどめたつもりにすぎない。ところが、外国人青年は相手のこの発言を自分の国の慣習上「結論」だと勘違いしてしまった。

Aは外国人青年、Bは日本人女性とする。

A:「信貴山スカイラインをドライブしませんか？」

B:「まあ、素晴らしいですね！今頃だと桜の花がとてもきれいでしょうね。」

A:「では、僕と一緒に信貴山スカイラインへお花見をかねてドライブに行きましょう！」

B:「いやあ、忙しいので、とてもじゃないけど、行けません！」

A: (心の中で)「断るのなら、最初から断ればよい。なぜ、最初にあれほど喜んだのか？いったんは賛成するかに見せておいて、あとでそれをひっくり返すとは、一体どういうことか？！僕は（日本人を）絶対に理解できない！」

と、憤慨している。しかし、日本語という言語そのものが理解できても日本人の「心」を理解できていない例であ

る。最初のB:「まあ、素晴らしい！」を解説するならば「私をわざわざ誘ってくれて、どうも御親切にありがとう」という〈おあいそ〉(“说奉承话”)である。意味のない単なる「あいさつ語」にすぎない。決して、ドライブに賛同して、「自分も一緒に行きたい」のではない。即ち、結論を先に、そして、明確に述べないのである。ところが、「原稿」となれば、全く異なる。次に、原稿の場合を述べる。

2. 原稿の場合は、先に結論を述べる。では、「書き出し」をどうするか？

逆に、文章(原稿)は、最初に結論を明確に主張するほうが読み手にとってよくわかる。これは、前項で述べた「最初に結論は良くない」と正反対である。会話文と原稿の文章表現とは異なるからである。読者は、書き手が何を言いたいのか早く知りたい。結論を早く知った方が安心する。したがって、「書き出し」の良し悪しが問題になる。「書き出し」をどう書くか? 「書き出し」が悪ければ、読み手にとっては読む気が無くなり、途中で傍らへ放り投げてしまう。

2.1. 最初に「結論」を書く。自分の立場を明確にする

「書き手の主張」が読み手に伝わって来るか否か、下記の実例で確認してみる。

2.2. その後に「理由」を順々に説明する

読者の心を掴むには、最初に肝心の「結論」を出す。その後に理由を述べるのである。

[日本人学生の実例を挙げる] (400字)

タイトル:「音楽」

私はアニメソングやゲームBGM、クラシックを好む。中でも最近はクラシックのピアノ曲を良く聴いている。実をいうと2年ほど前まではクラシックに一切の興味がなかった。興味が出てきたのは、あるきっかけがあった。それはピアノである。趣味で始めたピアノの影響でクラシックを聴くようになった。そして、その前にピアノを始めるようになったきっかけも存在する。それはゲームBGMである。あるゲームBGMを聴き、無性に「楽器で演奏してみたい」という気持ちがわいてきたのである。ピアノに触り始めてからは、ただその曲を練習しているだけだった。しだいに他の曲も演奏してみたくなり、いつの間にかクラシックに手を出していた。しかしクラシックは難しい曲ばかりで、ピアノ初心者の私には到底弾けるわけもない。今でもまともに弾けるクラシック曲はない。それでも弾きたいと思わせる魅力がクラシックにはある。だから初めて出会ったその日以来聴き続けているのである。

これは「今、クラシックに興味を持てた経緯」を表出していて、比較的分かりやすい文章であると言える。「結論は最初に言う」、「単文は短くする」、「誰にでも分かる平易な語彙を使用しての文章作成」、「400字程度でまとめる」など、講義した注意事項である「文章表現法の原則」を遵守しているからであろう。

第4章 読み手に分らせる原稿とは？

読み手に分らせる原稿を書くには、「自己満足」ではダメだということである。以下、幾つかのルールがある。

1. 観察文を書く

ものをよく見、観察する。細かく見ることである。そして、自分の「感想」を書くのではなく、見たままをそのまま書く。観察文にすれば、写生する要領で書くのだから文章を作成しやすい。「観念」や「理屈」は書かないようにする。初歩的段階は特にそうである。それも、最初は400字くらいが良い。この訓練を多く続ける。

2. 辞書の効用

原稿を書く時は、辞書（国語辞典）などを必ず横に置いていつも活用する。現代では、電子辞書になるだろうか（書くのもPCのキーボードをたたくのであろう）。筆者は、類義語辞典、語源辞典、英和辞典、漢和辞典、日中辞典などを傍らに置いている。

3. 自分の考えを持ち、主張する。

先ず、観察文をよく練習しなければならない。そして、その次は、自分の考えを提言・メッセージとして披露する文の練習に入る。例えば、「読書」について、自分はこういう考えを持ち、見方をしている。「読書の効用」として、「どんな時に、どのような読書をするか」を読み手の顔を浮かべながら自分の考え方を開陳する。

4. 読み手に分からせる原稿とは？

短文にすること。短文の積み重ねが、1つの段落となる。これも最初は400字くらいでまとめ、終結させるのである。これを1区切りとする。それを幾つかつなぎ合わせれば一篇の原稿となる。

4.1. 一区切りの文をできるだけ短くする。

逆接の「…が、…」は原則用いないようにする。これを用いると、文が長くなる。しかも、分かりにくくなる。「…が、…」の箇所を二重下線を引き、実際の「良くない」例を以下に示す。

【日本人学生の実例を挙げる】（400字）

タイトル：「現在の悩み」

9月から研修として働き始め、週三回先輩社員と一緒に朝から営業をまわしてもらっているんですがまずは道を覚えるのと注文のとり方を教わったのですが注文は普通に取れるんですが道を覚えるのが大変で色々行くところがありルートを覚えるのが一つです。

二つ目はコミュニケーションをとるというところです。

営業先でただ注文を取るだけでなくコミュニケーションをはかりどのような商品であるか、ここの営業所はこの商品多く入っているということも覚えなくてはならないので覚える事が多い。なので今の悩みで言うと覚える事が多くどう整理していけばいいかというのが悩みです。

最初の方で、逆接語「…（です）が…」が何箇所もありすぎる。これを修正し、文章を短くしなくてはいけない。皆さんはどのように直すだろうか。

4.2. 「主述関係」を明確にする。

「誰」が「どうした」を相手に分かるように、しかも短く書く。

4.3. 「修飾語」をなるべく使わない。

「とても」などの副詞や形容詞は修飾語である。修飾語はなるべく削除し、簡潔にする。この方が、読み手にとって印象深く、インパクトを与えることが多い。

前述の原文（の内容）をなるべく変えないようにして修正すると、以下のようになる。筆者が修正した箇所は「下線」を引いた。

タイトル：「現在の悩み」

9月から会社の研修生として働き始めた。道を覚えるのが大変だ。週三回先輩社員と一緒に朝から営業をまわらせてもらっている。まずは道を覚えるのと注文のとり方を教わった。注文は普通に取れるが、色々訪問しなくて

はならないところがあり道を覚える大変さがわかった。

二つ目はコミュニケーションをとることです。

重要なのは、営業先でただ注文を取るだけではない。相手とコミュニケーションをはかりどのような商品であるか、どの営業所にはどの商品が多く入っているかも把握しなくてはならない。覚える事がじつに多い。現在、最大の悩みは、覚える事が多くどう整理していけばいいかという点です。

筆者の「原稿の書き方」を学んだ別の日本人学生は、(上記「模範修正文」を見ず)以下のように修正した。このように、少し学習するだけで、読みやすくすることは可能なのである。

タイトル：「現在の悩み」

9月から 研修社員として働き始めた。週3回先輩社員と一緒に朝から営業に回らせて貰っている。

まず、道順と注文の取り方を教わった。注文の方は確実に取れるようになった。ただ、道順を覚えるのが大変だ。これを早く覚えるのが1つの課題である。

営業先では、ただ注文を取るだけではいけない。コミュニケーションをはかり、商品がどのようなものであるかを説明する必要がある。

また、「どの営業所にどの賞品が多く入っているか」も覚えなければならない。覚えることが多く、どう整理すればよいかわからない。これが、今自分が最も悩んでいる事である。

上記の文は、作文の講義を少々学習しただけで、見違えるように読みやすい原稿となっている。作文の原則「文を短く」、「主述関係明確」を遵守しているからである。

5. 読み手のことを考える

読み手に分からせる原稿で注意すべきことは何か？ 先ず、読み手のことを考える。とりわけ、語彙の使い方等について、読み手に対して種々配慮すべきである。友人に手紙を書く時は必ずその人の顔を思い浮かべながら文を綴るであろう。この手法を用いるとよい。

自分の世界に入り込んで満足しているだけではいけない。読み手に分かってもらえるように工夫する。例えば、「想像上の世界では、ゲーム業界、ゲーム関係の書籍などがある」の「想像上」は不適切用語で、「フィクションの世界」のようにカタカナ語の方が馴染んでいる。こちらを取って用いると更に分かりやすい。

下記の文は、ゲームが好きな若者が読み手のことを全く考えずに勝手な文を作っている感がある。

[日本人学生の実例を挙げる] (400字)

タイトル：「オタク文化と景気回復」

ここ3年の間に発展しているオタク文化について意見を述べる。

一言、「オタク」と言っても、私がおの場合言っているオタクとは、アニメやゲームが大好きな人々のことである。近年、日本のアニメやゲームが日本国内だけにとどまらずかなりの人気がある。その証明としては、海外でコスプレをする人や、コスプレの大会が開かれていることにも表れている。

オタク市場での売り上げ総額は、最近では数10億円にも上り、大きな発展をとげている。具体的には大型ゲーム機、小型ゲーム機、ゲームディスク、原作、ゲームからの小説化、漫画化、映画化、DVD、Blue-ray、ポスター、

フィギュアなどである。即ち、数多くのゲーム、アニメ関連商品などを対象としている。

そこで私は考えた。去年から続いている世界的不況を打破するため、このオタク市場を利用できないだろうか？ そうすれば、景気回復に繋がるのではないか。回復とまでは行かなくても、現状よりは良くなるというのが私の意見だ。

この文章は、これまで「原稿の書き方」を学んだ学生である。「自分の主張を述べる」ように、そして、「文を短くする」ように努めている。しかし、やたら「オタクことば」が多いのではないか。自分が分かっている、相手が分からなければ話にならない。誰でもが分かるように書く必要がある。最近流行している「TVゲーム業界、動画業界」の用語をたくさん使用すれば、必ずしも皆に理解されないだろう。少なくとも、一定の年齢層以上の人々には分かりにくくなる。

ここで用いられている「オタク文化」、「オタク市場」、「コスプレ大会」、「Blue-ray」、「フィギュア」など、マニアック語彙が多い。説明を加えないとわかりにくい。例えば「大型ゲーム機」は、wiiなどのTVゲームで、「小型ゲーム機」とはDSなどに見られる携帯ゲーム機のことである。新語「Blue-ray」は何だろうか？¹⁷⁾これらに関心のない人にとっては、何が何だかわからないだろう。しかも語彙の用法自体もマニアックである。

以上、「原稿の書き方」を学習してきた。次に、実践として「自己紹介文」の書き方を練習する。

6. 自己紹介文の書き方¹⁸⁾

「自己紹介文」は種々の書き方がある。ここでは、少々趣向を凝らした、ユニークな書き方を学習する。

6.1. ユニークな「自己紹介文」を書くには

個性のある、ユニークな「自己紹介文」を作成するにはどのような工夫が必要か。次の1)～3)の如くに考える。

- 1) (自分自身を)取材する。
- 2) 構成を練る。大雑把な構想を皆の前で発表し、広く意見を聴取する。そして、もう1度練り直す。
- 3) 幾度か書きなおしをして、作品の域にまで高める。完成すれば、皆の前で朗読し、広く意見を聴取する。

6.2. 自分自身を取材する

改めて自分自身を取材しないと、「何をどのように」自己紹介すればよいのか、案外わからないものである。

- 1) 名前

姓名そのものに関する事項、文字の意味、歴史上の人物との共通点（例えば同姓、同一地方の出身など）、姓名の画数など。
- 2) 自分の「好み」

自分自身の好きなものはなにか？ 1つでも、また、複数でもよいから具体的に書く。ジャンルは以下のとおり。

スポーツ、花、ことば、音楽、人物（歴史上の人物、タレントなど）、ペット、食べ物、映画、小説、詩歌、仕事（職業）など
- 3) 自慢話と失敗談

思い出話をエピソードとして1つでもよいから具体的に書く。内容の一例は以下のとおり。

特技、ロマンス、初恋、病気やケガの克服、家族紹介、旅行、最もたのしかったことなど
- 4) 将来への展望

下記の事項について、1つでもよいから具体的に書く。内容の一例は以下のとおり。

これからの挑戦、今後の目標、将来の夢、自分の将来像、将来つきたい職業・職種、今後やりたい趣味など。

6.3. 各項目の「書き方」のヒント

- 1) 上記 6.2. の 1) ~ 4) の各項目について、取材した「材料メモ」と「あらすじ」を思いつくまま書いてみる。何にも捉われないで書くことがポイント。箇条書きで可。
- 2) 上記 6.2. の 1) ~ 4) の各項目は、なるべく「同じ長さ」で並べないことが肝腎。
- 3) 各項目に濃淡（減張：メリハリ。抑揚）を付けること。
- 4) 各項目は、説明的に書かない。なお、語り口調、手紙風を書くのもよい。
- 5) 上記 6.2. の 1) ~ 4) の項目ごとに取材した材料を整理する。
- 6) 整理した材料を組み合わせ、順序を工夫して構成を考える。
- 7) 次に「自己紹介」の文章を作成するのであるが、自分独自の点を入れる工夫をする。

6.4. 自己紹介文の構成

ユニークな一点を盛り込む工夫を考える。特に、下記 1) ~ 5) は必須である。

- 1) 聴衆の印象に残る個所をつくる。
- 2) 「誰にでも通用する」ような「平凡な表現」は避ける。
- 3) 適当に「自己PR」を入れて（聴衆に対して）「自分の特徴」を意識させる。
- 4) 「自慢めいた言い方」にならないよう、適度な謙虚さを出す。
- 5) 「自分の得意な分野」については、ややうがった（微妙な点を巧みに表現する）調子で堂々と述べる。
- 6) 「クイズめいた問いかけ」の箇所を挟むのもよい。例えば「…についてどう思われますか?」「その答えは…」の如き一文を入れるのも新鮮でよい。
- 7) 自身が歴史上の人物、時の人、タレントなどに関わるものがあれば出す。
- 8) 自身が小説、詩歌、古典芸術、音楽、絵画、演劇、スポーツなどに関わるものがあれば出す。

以上の事項を考慮し、実際に文構成を練る。

文構成を練り上げた後、それを発表し、聴衆と意見交換する。相互批評のポイントは以下のとおり。

- 1) 「本人の個性」がよく現れている箇所はどこか?（該当箇所をメモ書きする）
- 2) どんな点に感心したか?（該当箇所をメモ書きする）
- 3) ユニークな点はどこか?（該当箇所をメモ書きする）
- 4) 更に良い構成にするには、どこをどう直せばよいか?（該当箇所をメモ書きする）

6.5. 自己紹介文の完成と発表

ユニークな「自己紹介文」の構成を練り上げ、その次に、1つの「作品」にまで高めて発表する。発表者の朗読を聴いている人は、下記の各項目を参考にして評価を行う。この理由は、「作品を深く見る目（批評眼）を養うため」である。¹⁹⁾

- 1) 個性的で、その人らしい味のある内容になっているか?（該当箇所に下線を引く）
- 2) ユニークな箇所、人を引き付ける魅力的な箇所はあったか?（該当箇所に○印を付ける）
- 3) やや気になる箇所、工夫すべき箇所、疑問に思う箇所、不十分な箇所はないか?（該当箇所に×印をつける）
- 4) 誤字、脱字、誤り箇所、変な表現の箇所はないか?（該当箇所にV印をつける）
- 5) 本人（作者）に「一言」批評を言うとしたら、何と言うか?

以上で、自己紹介の実践要領を終える。次は、音読の効用について論述する。

第5章 なぜ、音読が良いのか？

1. 声に出して読んでみる

次の文「僕は、自身に自信がなかった」は、実際に学生が書いたものである。声に出せば変だと気づくはずだが、単に文として書いたので気付かなかったのであろう。これは、音読すれば「自身」を「自分」に変えるとよいのが自ずとわかる。

2. スラスラ言えないとダメである

スラスラ音読できなくて、詰まるような箇所は、必ず書き換えること。なぜなら、文の通りが分かりにくい所だと思われるからである。

3. 「名文」とは、要点明瞭、単純な言葉で、文章の区切りが短い。

名文を音読し、鑑賞する。要点明瞭、単純な言葉、文章の区切りが短い点に注目すべきである。夏目漱石が世に残した作品の文章は、その1つ1つが短い。とりわけ、漱石の『草枕』の最初の箇所はリズムがよいので下記に挙げる。

〔夏目漱石『草枕』明治39年9月1日（1906年）〕

山道を登りながら、こう考えた。

知に働けばかどがたつ。情にさおさせば流される。いじを通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさがこうじると、安いところへひきこしたくなる。どこへ越しても住みにくいと悟ったとき、詩が生まれて、絵ができる。

人の世を作ったものは、神でもなければ、鬼でもない。やはり、向う三軒両隣にちらちらするただの人である。ただの人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば、人でなしの国へ行くばかりだ。人でなしの国は、人の世よりも、なお住みにくかろう。

越すことのならぬ世が住みにくければ、住みにくいところを、どれほどかくつろげて、つかのまの命を、つかのまでも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職ができて、ここに画家という使命がくだる。あらゆる芸術の士は、人の世をのどかにし、人の心を豊かにするがゆえに尊い。（以下、略）

繰り返し、音読することを希望する。

4. 日本語を耳から聞かせ、響きを大切にす

音読し、日本語のリズム、調子、響きを感じさせるのが大切。耳で聞く「ことばの美しさ」を訓練する。

和歌は五七五七七のリズム。これに対して「いろはガルト」はリズムが様々である。

4.1. かるた—— 1.1. 「うたガルト」 = 小倉百人一首（藤原定家撰）

〔例〕 春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山

—— 1.2. 「はなガルト」 = 花札

—— 1.3. 「いろはガルト」

〔いろはガルト〕：もとは京都におこり上方（かガタ）地方でおこなわれていたもの。江戸時代に流行。生活信条や処世要領訓となっている。いわば「社会科教科書」のごときものである。現代でもなお生き続けている。

イ 一寸先は闇（ごく僅かな先のことでも予知できない。何が起こるかかわからない）（“前途莫測”）

- 犬も歩けば棒に当たる [*江戸で改められ一般的になったもの] (“①闲溜也会碰上好运气。②好出风头会倒霉”)
- ロ 論語読みの論語知らず (いたずらに書物上の理解のみにとどまって、これを実行し得ぬものをいう) (“书呆子”。“脱离实际的理论家”)
- 論より証拠 [*江戸で改められ一般的になったもの] (“事实胜于雄辩”)
- ハ 針の穴から天を覗く (= 「管の穴から天上覗く」: 貧弱な知識や狭い見識をもって深い学問や複雑な世界情勢などを論ずる愚かさをいう)。(“井底觀天”)
- 花より団子 [*江戸で改められ一般的になったもの] (“不求美观, 但求实惠; 舍华求实”)
- ニ 二階から目薬 (非常に回り遠いことの譬え。また、効き目の無いことの喩え) (“楼上滴眼药, 不见成效; 远水救不了近火”)
- 憎まれっ子世にはばかる [*江戸で改められ一般的になったもの] (“顽皮儿童能成才; 讨厌的孩子有出息”)
- ホ 仏の顔も三度 (“事不过三”)
- 骨折り損の草臥れ儲け [*江戸で改められ一般的になったもの] (“吃力不讨好。劳而无力”)
- ヘ 下手の長談義(話のまずい人の話は、とかく長くて退屈になる=「下手の長口上」) (“废话连篇。又臭又长的讲话”)
- ト 豆腐に銚<かすがい> (“白费力”)
- 年寄りの冷や水 [*江戸で改められ一般的になったもの] (“老了还逞强”)
- チ 地獄の沙汰も金次第 (“有钱能使鬼推磨”)
- 塵も積もれば山となる [*江戸で改められ一般的になったもの] (“积少成多”)
- リ 綸言汗の如し (流れ出た汗を再び体内に引っ込めようがないのと同じように、天子の言葉は、一度口から出れば、もはやとりかえしがつかないものである) (“綸言如汗。君无戏言”)
- 律義者の子沢山 [*江戸で改められ一般的になったもの] (“规矩人子孙多。忠厚老实的人不贪图享受, 夫妻和睦, 自然多子多孙”)
- ヌ 糠に釘 (“无效; 徒劳; 不停人家意见”)
- オ 鬼も十八<番茶も出端> (“丑女二八也好看, 粗茶刚沏味亦香”)
- ワ 笑う門には福来たる (“和气致祥。和气生财”)
- 破れ鍋に綴じ蓋 [*江戸で改められ一般的になったもの] (“<1> 破锅配破盖。不管什么样的人都会有和他相应的配偶。<2> 夫妻最好是门当户对”)
- カ 蛙の面に水 (“满不在乎”)
- ヨ 夜目遠目傘の内 (女性は、夜見るとき、遠くから見るとき、傘をさしているのを見るときが最も美しく感じられる) (“女性三美: 月黑头、离得远、斗笠下。在黑夜、远处、斗笠下, 女性显得比实际更美”)
- タ 立て板に水 (“口似悬河”)
- 旅は道連れ世は情け [*江戸で改められ一般的になったもの] (“旅行靠伴侣处世靠人情”)
- レ 連木で腹を切る (“研磨棒剖腹。根本不可能。荒诞无稽”)
- ソ 袖振り合うも多生の縁 (「多生」= 「他生」) (“哪怕萍水相逢也是前生有缘”)
- (ささいな関係にも、全て前世からの因縁のつながりがあるということ)
- 総領の甚六 [*江戸で改められ一般的になったもの] (“傻呵呵的老大; 长子多愚蠢”)
- (長男は、他の兄弟に比べて愚かで鷹揚な者が多い)

- ツ 月夜に釜を抜く（月夜という明るい状態なのに釜をぬすまれる。甚だしい油断の喩え）
（“太马虎：月下丢锅，太粗心。麻卑大意。＜原为在月光明亮的夜里，锅被盗走却未发现＞”）
- ネ 猫に小判（“对牛弹琴；糟蹋好东西”）
寝耳に水 [*中京で訂正され一般的になったもの]（“事出意外；青天霹雳”）
念には念を入れ [*江戸で改められ一般的になったもの]（“要特别注意，仔细谨慎。必须慎之又慎”）
- ナ 泣き面に蜂（が刺す） [*江戸で改められ一般的になったもの]（“祸不单行”）
- ラ 来年のことを言えば鬼が笑う（“人作千年调，鬼见拍手笑”）
- ム 無理が通れば道理引っ込む [*江戸で改められ一般的になったもの]（“无理行得通，道理就不通”）
- ウ 氏より育ち（“门第高莫如教养好。教育胜于门第”）
嘘から出たまこと [*江戸で改められ一般的になったもの]（“弄假成真”）
- イ 鯛の頭も信心から（“精诚所至，金石为开。心诚则灵”）
- ノ のど元過ぎれば熱さを忘れる [*江戸で改められ一般的になったもの]（“好了伤疤忘了痛”）
- オ 負うた子に教えられ浅瀬を渡る（“问路好童。不耻下问。人有时受教于位卑识浅者”）
鬼に金棒 [*江戸で改められ一般的になったもの]（“如虎生翼”）
- ク 果報は寝て待て [*中京で訂正され諸国に伝えられたもの]（“因果终有报”）
- ヤ 安物買いの銭失い [*江戸で改められ一般的になったもの]（“贪贱买老牛”）
- マ 播かぬ種は生えぬ（“不播种籽不长苗”）
負けるが勝ち [*江戸で改められ一般的になったもの]（“输则胜”）
- ケ 芸は身を助くる [*江戸で改められ一般的になったもの]（“一技之长可以湖口”）
- フ 武士は喰わねど高楊枝（“甘守清贫；士不饮盗泉之水”）
- コ 子は三界の首かせ [*江戸で改められ一般的になったもの]（“孩子是父母一生的累赘”）
（親の子に対する愛着と苦悩は、過去、現在、未来に渡って絶えることがない）
- エ 縁の下の力持ち（人知れず陰で努力、苦勞していること）（“无名英雄”）
- テ 亭主の好きな赤烏帽子（主人が好む物事は、たとえ異様なものであっても、家族の者が傍からかれ
これ言って改めさせることもできず、何ともしようがない）（“主人放屁也说香，＜全家都得＞投其所好”）
- ア 頭隠して尻隠さず [*江戸で改められ一般的になったもの]（“藏头露尾。顾头不顾尾”）
- サ 触らぬ神にたたり無し [*中京で訂正され諸国に伝えられたもの]（“多一事不如少一事”）
- キ 聞いて極楽、見て地獄 [*江戸で改められ一般的になったもの]（“见景不如听景”）
- ユ 油断大敵 [*江戸で改められ一般的になったもの]（“万万不可麻卑大意。粗心大意害死人”）
- メ 目の上の瘤 [*江戸で改められ一般的になったもの]（“眼中钉；肉中刺”）
- ミ 身から出た錆び [*江戸で改められ一般的になったもの]（“咎由自取。自作自受”）
- シ 知らぬが仏 [*江戸で改められ一般的になったもの]（“眼不见，心不烦”）
- エ 縁は異なるもの味なもの [*江戸で改められ一般的になったもの]
（“[男女] 缘份是不可思议的，姻缘天定。千里姻缘一线牵”）
- ヒ 貧乏暇無し [*江戸で改められ一般的になったもの]（“越穷越忙”）
- モ 餅は餅屋（“办事要靠内行”）
門前の小僧習わぬ経を読む [*江戸で改められ一般的になったもの]（“门前小僧会念经。比喻耳濡月染，不学

自会”)

セ 背に腹は代えられぬ [*江戸で改められ一般的になったもの] (“为了要紧的事, 顾不得其他”)

ス 雀百まで踊り忘れぬ (“秉性难移”)

ン

4.2. 詩歌

「文語定型詩」を紹介する。「初恋」(島崎藤村作)は、七五調でリズムがとてもよいので、音読に極めて適している。自分の「初恋」のことを頭に描きつつ、暗誦するべし。

まだあげ初めし 前髪まへがみの 林檎りんごのもとに 見えしとき 前にさしたる 花櫛はなぐしの 花ある君と 思ひけり
 やさしく白き 手をのべて 林檎をわれに あたへしは 薄紅うすくれないの 秋の実に 人こひ初めし はじめなり
 わがころなき ためいきの その髪かみの毛に かかるとき たのしき恋こひの盃さかずきを 君が情なさけに 酌くみしかな 林檎畑りんごばたけの
 樹この下に おのづからなる 細道ほそみちは 誰たが踏ふみそめし かたみぞと 問とひたまふこそ こひしけれ

[付記]

本学も大学教育の国際化を謳い、2009年4月正式に国際交流センターを設置し、本格的に外国人留学生を受け入れた。しかし、留学生に対する対応は、現在のところ国際交流センターの教職員に概ね委ねられている。したがって、本学における留学生が増加しても「大学の国際化」は重視されているとはいにくい。なぜならば、一般の大学教員や日本人学生にとって、意識としてはさほど特段の変化も見られないからである。この結果、外国人留学生の受け入れや彼らの大学生活に対応する種々の工夫、方法は国際交流センター運営委員及びセンター事務職員のみがスキルアップしているにすぎない(このような状態は、1980年代～1990年代の日本の大学でよく見られた現象であった)。即ち、国際交流センターと留学生との間のみでコミュニケーションがはかられ、本学そのものの「国際化」はまだ程遠い段階にあると言える。しかも、教学面における「国際化」は、国際交流センターの範疇を超えている。

[注]

1) 小稿は、平成22年度「日本事情I --- 言語からのアプローチ」を5回に分けて外国人留学生のために講義したものを骨子とする。受講生は1回生ミャンマー国籍1名、豪州国籍1名、中国籍69名、蘇州科技学院3年次生の特別聴講生4名。

本留学生は、全員が日本語能力試験2級以上のレベルに達している。講義を開始する前に、受講生のニーズを探るため「外国語(留学生にとっては日本語)はどの程度まで学ぶべきか?」のアンケート調査を実施した。幾つかの項目を設けたが、狙いは「外国語(日本語)そのものを大切なもの、重要なものとしてとらえているのか否か」とした。換言すれば、「外国語(日本語)よりも専門分野(例えば、ビジネス管理能力など)に力点を置くのか否か?」に集約できる。

アンケートの結果、「外国語(日本語)能力を磨くことは重要だ」と対立させた設問「外国語(日本語)よりも自分の専門性(「ビジネス学科」、「情報学科」)を高めたい」が相拮抗している形となる。[表1]参照。

[表1] 受講生の「外国語（日本語）に対する考え方」

	ビジ初学科	情報学科	特別聴講生
(A) 外国語（日本語）能力を更に磨くことは重要である	20	13	3
(B) 外国語（日本語）よりも自分の専門性を高めたい	21	13	0
(C) どちらとも言えない 両方ともたいせつである	5	4	1

(A) は、概ね「日本語能力」水準が高い人に多かった。元来、特別聴講生は日本語学科の専攻生ゆえに、今後とも日本語能力を研鑽するのは当然である。

受講生のニーズが [表1] のように判明したところで、「日本の実社会で把握しておくべきコミュニケーション」を念頭に置きつつ、我々が常用する場面で日本語の「深い」意味を講述した。

5 回目の講義を終了したとき、受講生全員にこの科目を受講した感想文を自由に書いてもらった。彼らの関心ごとをまとめると以下ようになる。「(講義が) 自分にとって役立つか否か」、「講義中の雰囲気」、「留学生からの要望」の3項目になる。数字は、この3項目に言及していればカウントしたので、複数回答になる。

[表2] 受講生から見た「日本事情 I」の講義について（「役立つか否か」、「雰囲気」、「要望」）

大項目	細目	人数
役立つか 否か	将来のために役立つ	14(名)
	日常生活に役立つ	12
	実用的だからよい	5
	外国（中国）と日本の「文化の差」を明確にしてくれてよくわかった	23
	日本文化（論）に興味が出て来た	3
	前の学校（日本語学校、専門学校、大学）では習わなかったことがらを学んだ	7
	以前の学校よりも深いものを学んだ	6
	何の講義かわからなかった	1
講義中の雰 囲気	講義中の雰囲気が良い	33
	講義が面白い	
	講義が分かりやすい	
	先生が面白い	
	寝る人も全然いない	
	充実していた	1
	先生は厳しい！講義は厳しくしないと、私たち留学生はまじめに受けません	3
	先生は厳しいので母国（中国）の先生を思い出しました。感動した。	1
皆の前で学生を厳しく叱るのはよくないです	3	
留学生から の要望	日本語会話（討論を含む）を勉強したい	1
	日本の昔（古代～近世）も勉強したい	1
	現代日本社会の事件をもっと知りたい	1
	経済を勉強したい	1
	DVD やパワーポイントなどを用いれば、もっと分かりやすいのでは？	1

感想文は、特定の狙い、テーマを定めたわけではない。しかるに、最も多かったのが「現在、そして、将来の自分に必ず『役立つ』内容でした」という(64名)。しかも、「以前の日本語学校、専門学校では習っていない深い内容です」という。(6名)。中には蘇州からの大学3年次生で「中国の大学で既に習った箇所もあった。しかし、中国では『何が何だかわからなかった。』今、日本に来て、先生の講義で初めて理解できた」というのもあった(3名)。筆者は、自身の講義に対して必ずしも満足していない。にもかかわらず、「役立つ」と感想を述べたのが70人に達したのには驚き、且つ、幸いであった。

今、現実に日本社会で生きているのだから、日本人及び日本文化、日本社会の根本を理解しなければいけない。そうでないと文化摩擦が生じる。留学生の適応性を高める為に、種々考えた挙句「言語からのアプローチとして『日本人の考え方』を探る」を大テーマに設定した。講義しているとき、彼らの反応は、時折手ごたえは感じたものの、さほど芳しいとは思えなかった(入学間も無いから緊張していたのか)。しかし、感想文に「早朝から登校し、1日最後の5時間目の講義のため、いつも疲れていた。ただし、この科目だけは眠くならなかった。友達もそう言っている」が何人もいた(6名)。教師はエンターティナーではない。しかし、今夏、某日本語講師が夏季班担当をやり終えて「学習者の皆さんの授業態度は、そのまま自分の授業への評価」と位置づけているのである。眠くさせない工夫が必要である。

もちろん、大学の講義が全て「面白い」、「(実社会、実生活に)役立つ」ものばかりではない。否、むしろ逆である。「(大学では)役に立たないことを学ぶ」、このことが社会へ出て初めて理解するのである。例えば、経済学科を卒業しても経済の専門家とは到底言えない。現実の社会では、経済について分からないことばかりであろう。即ち、「大学で学ぶ」のは(実社会、企業活動等においては)基礎の基礎にしかすぎない。「この辺のことが大学1年次生ではまだ理解できていないと思われる」。

教師側からのこの種の理屈は、大学の講義ではこれまで当然だとされてきた。しかしながら、現在では、既に「過去のもの」とであると、認識を改めなければならない。千篇一律の如き講義はもはや通用しないのである。留学生には留学生用の講義、日本人学生にはそれ用の講義をしなくてはならない時代になった。とりわけ、ビジネス、情報両学部ともに「時代の最先端」に行くにふさわしい学問と見られても当然だからである。

次に、「講義中の雰囲気」に言及しているのが多かった。そのうち、肯定的な意見は32名、逆に、「(中国人としての)プライドを傷つけられた!」と勘違いしているのが3名いた。確かに、「コトバも言いようで角(かど)が立つ」を実際に味わった。

2) 現地の発音や語の組み立てとかけ離れていることも多い。例えば、英語「curry and rice」を和製英語で「カレーライス」と表記する。なお、「日本における外国語の誤用」として以下の1.~3.の種類をフリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』より一部を抜粋する。

1. 原語文化圏では全く使用されていないもの: 「W」: 語源と思われる語は英語の「double」である。英語の文字「W」の文字の語源は「double u」(二重のu)とされるが、英語の「W」の文字に「二重」の意味はない。二重を意味させる場合は「double」と表記する。

2. 原語の意味とは異なる意味で用いられているもの: 「ボディチェック」: 語源と思われる語は英語の「body check」である。日本語では空港などでの身体検査の意味で用いられるが、英語の「body check」はアイスホッケーなどの「体当たり」を意味する。(中略)

3. 和製英語(上記2項目とも関係する): 「サイン(歌手やスポーツ選手などの)」: 語源と思われる語は英語の「sign」。「sign」は名詞としては「看板」などの意味。「サイン」に相当する英語の語は「autograph」。(中略)「署

名」に相当する英語の語は「signature」。

3) 「シャリ」は漢字で「舍利」と書く。もと梵語のサリーラ (Sarira) からの語。

4) 「お宅」、「御宅」とは、①相手の家の尊敬語。②相手の夫の尊敬語。③相手または相手方の尊敬語。しかし、カタカナ語の「オタク」になると意味が変化する。小稿第4章「読み手に分らせる原稿とは？」に「オタク文化と景気回復」がある。そこでの「オタク」は意味が異なる。

5) 中国では一般にストレート表現をされると言われている。筆者が百人以上の中国人（多くは、留学生、大学教職員）にアンケートしたところ、「ストレートに断らなければ、逆に相手に対して迷惑がかかる」という。とりわけ、中国では種々の民族がいる。しかも階層も複雑なため、「あいまい表現」では相手にうまく伝わらないからであろう。

6) 外山滋比古 2004,p.182-188 を参考にした。

7) 「日本人は婉曲で、外国人(対象はアメリカ人)はストレート」というのは、あくまでも相対的なものである。筆者は、勿論、言語行動様式を一元的にとらえるものの見方に対して異を唱える者である。外山滋比古 2004,p.200-202 を参考にした。

8) 外山滋比古 2004,p.223-227 を参考にした。

9) この場合のBは欧米人。中国人ではどうか。「暇なときには遊びにいらっしやい!」、これに相当する中国語は“有时间来我家作客!”であろう。この中国語は、筆者自身よく耳にしたが、「単なる挨拶」ではないことが多いように感じた。

10) (新築などで) 転居したばかりの家を訪問する場合は、特に「新築祝い」としての祝儀(現金でも品物でも可)が必要である。また、あらかじめ「訪問の連絡」を相手側へ通知しておくべきである。そうすれば、「ほうほうのてい」にならずに済むであろう。

11) <茶漬(け)>は『広辞苑』に次の如く説明する:①飯に熱い茶をかけたもの。副食に香の物などをそえる。②簡単な食事、粗末な食事。

12) 「京の茶漬け」の話をしたとき、銭紅日(華南理工大学外国語学院副教授)氏が「日本の宴会終了」の合図を表す例として指摘して戴いた。

13) 外山滋比古 2004,p.176-181 を参考にした。

14) 日本ではなぜ「お蔭様」の心が今もなお脈々として生き続けているのか。『ことばの豆辞典』1994,p.89によれば「江戸時代には特に伊勢信仰が広まり、伊勢神宮を『お蔭参り』と呼んでたいへんな流行でした」とある。日本人の心情を表す「お蔭様」の発端は江戸時代よりも歴史が古いのである。

15) 金田一春彦 1975,p.237 を参考にした。

16) 但し、金出 2004,pp.200-204の「前置きなしに話す」は聴衆を退屈にさせないテクニックで、有用だと思う。どのようなときか。(競争などが絡む)プレゼンテーションの場合である。こういうときは、課題の背景、現状分析を先に話してはいけない。それよりも、いきなり本題(即ち、結論)を述べるべきである。そうしないと、内容が複雑になり聴衆は多く関心を持たなくなるであろう。なお、「最初に結論を言わない」のは、外山滋比古 2004,p.217-219 を参考にした。

17) フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より引用すると以下の通り。

「“Blue-ray Disc”(ブルーレイディスク)とはソニー、パナソニック、シャープなどが“Blue-ray Disc Association”で策定した青紫色半導体レーザーを使用する新世代光ディスク規格である」。

18) 柳瀬真子 1993,「わかくさ P.G.平成5年度第1回~第3回<自己紹介の文章作成>」,handout を参考に加工した。

19) 自分自身が朗読することにより、表現上の工夫などを自らチェックできる。また、他人の作品を鑑賞するのは、その人の新しい発見ができ、親密感も得られるであろう。

[参考文献]

夏目達也、近田政博、中井俊樹、齋藤芳子、『大学教員準備講座』（高等教育シリーズ 149）、玉川大学出版部、2010年。

倉地暁美、「多文化共生のコミュニケーション能力とその開発」 pp.149-165, 縫部義憲監修, 倉地暁美編, 『多文化間の教育と近接領域』, 講座日本語教育学所収, スリーエーネットワーク, 2006年。

———, 「ジャーナル・アプローチ」 pp.215-229, 縫部義憲監修, 倉地暁美編, 同上。

外山滋比古、『頭の良い子は「ことば」で育つ』, 海竜社, 2004年。

竹俣一雄、鶴田顕三、『原稿の書き方』, ナツメ社, 1978年。

井上ひさし、『自家製 文章読本』, 新潮文庫, 1987年。

———, 『井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室』, 新潮文庫, 2002年。

金出武雄、『素人のように考え、玄人として実行する—問題解決のメタ技術』, PHP 研究所, 2004年。

吉沢典男、石綿敏雄、『外来語の語源』, 角川書店, 1979年。

国語学会編、『国語学辞典』, 東京堂出版, 1977年。

木下是雄、『理科系の作文技術』, 中公新書, 1981年。

佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦、『アカデミック・スキルズ』, 慶應大学出版会, 2006年。

清水幾太郎、『論文の書き方』, 岩波新書, 1959年。

中村真一郎、『文章読本』, 新潮文庫, 1982年（文化出版局, 1975年）。

江藤寛子、加古三郎、『ことわざ故事・金言小事典（附・いろはがるた略解）』, 福音館書店, 1966年。

奥山益郎、『あいさつ語辞典』, 東京堂出版, 1972年。

———, 『正しいようで正しくない敬語』, 講談社, 1994年。

奥秋義信、『ちょっと迷うとっさの敬語』, 講談社, 1999年。

さくら銀行編、『ことばの豆辞典』, 三笠書房, 1994年。

矢橋昇、『この一冊で「敬語」がわかる』, 三笠書房, 1997年。

中村明、『日本語のコツ』, 中公新書, 2002年。

加藤秀俊、『なんのための日本語』, 中公新書, 2004年。

英文タイトル The Lecture of Japanese Language. Ueda, Hitoshi